



冬に流行する 溶連菌感染症

「のどが痛い、熱が出た」この時期にこうした症状が現れると、インフルエンザや、新型コロナウイルス感染症などではないかと心配になります。でも、もしかすると、その症状は溶連菌感染症かもしれません。



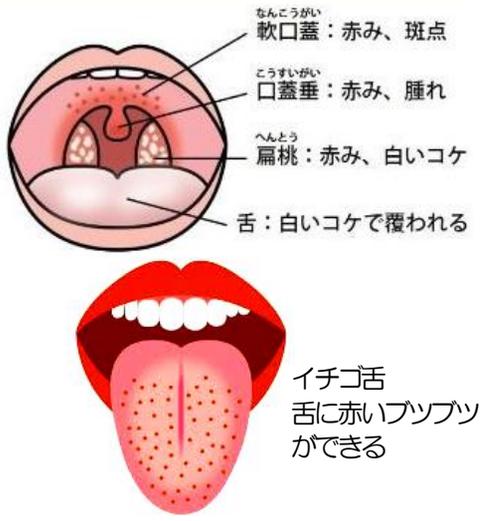
溶連菌感染症とは

溶連菌感染症とは、≪溶血性連鎖球菌≫という細菌がのどに感染して起こる病気です。咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、病原菌が手などを介して体内に侵入する接触感染で拡がります。特に11月から4月は、溶連菌が活発に活動を始めるため、注意が必要となります。

感染すると、2〜5日程の潜伏期間の後に症状が現れます。のどの痛みや発熱など、インフルエンザと判別が難しいため、疑わしい症状があれば検査を受けましょう。

症状や特徴

突然39℃前後の高い熱が出て、咽頭炎や扁桃炎のような「のどの風邪」の症状が出ます。のどの奥の扁桃部分が赤く腫れ、強い痛みがあります。咳や鼻水など、他のかぜ症状が少ないことも特徴です。



特徴的な症状として、発症直後に、舌が白いコケで覆われたような状態になります。その後2〜5日程で舌に赤くブツブツができる「イチゴ舌」と呼ばれる状態になります。



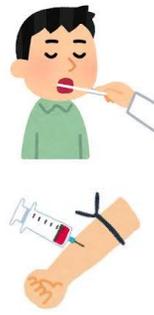
また、頭痛や倦怠感が続いたり、嘔吐、腹痛、下痢などの胃腸症状を伴うことや、筋肉痛や関節痛が出ることもあります。首のリンパ節が腫れたり、中耳炎や副鼻腔炎を併発することもあります。注意が必要です。



全身症状としては、赤くザラザラした小さな発疹が首や胸、手足首に出て、全身に広がることもあります。発疹の部位や程度はさまざまですが、かゆみを伴います。1週間ほどで発疹は改善しますが、その後、指先の皮膚がむけてきます。こちらも3週間程度で収まります。

溶連菌感染症の治療

● 検査・診断
溶連菌感染症の検査では、のどの奥の粘液を採取して感染の有無を確認します。簡易検査では、15分ほどで診断結果が出ます。また、血液で検査することもあります。



● 治療
薬による治療では、病原菌を殺す抗菌薬を5〜10日間服用します。飲み始めて1〜2日で熱も下がり、のどの痛みも和らいで、体の発疹も快方に向かいます。

抗菌薬により、症状は数日で改善しますが、溶連菌が体内から完全に消えたわけではないため、治療後、すぐに再発してしまうこともあります。また、まれに溶連菌感染症から「リウマチ熱」や、「急性糸球体腎炎」を併発することもあります。

再発注意!!



症状が改善しても、勝手に薬の服用を止めずに、医師の指示に従って飲み切るようにしましょう。薬を飲み始めて2〜3日経っても症状が改善しない場合には、再度、医療機関を受診しましょう。

身近にできる予防方法

溶連菌感染症は、感染力のとても強い病気です。子どもから大人まで誰でも、何度でも感染します。もし家族の誰かが感染した場合には、感染が広がらないように、みんなで対策する必要があります。



飛沫感染では、発症者の唾液などに含まれた病原菌を吸い込むことで感染します。飛沫を防ぐには、マスクの着用が効果的です。



接触感染では、病原菌がついたタオルやドアノブなどに触れ、その手で口や鼻を触ることで感染します。こまめな手洗いや手指消毒、よく触れる物などの消毒を行い、家庭内感染を予防しましょう。



咽頭炎などの症状があり、感染が疑わしい場合は、医療機関を受診しましょう。
(金井)

辺野古新基地問題

沖縄の海に起きてきていること



沖縄県にある米軍の基地問題は、長年にわたる沖縄県と政府との闘いです。

現在、問題になっているのは、普天間（ふてんま）基地を名護市辺野古（へのこ）へ移すという話です。政府と意見が対立しており、辺野古移設に反対する市民の方々が、米軍キャンプ・シユワブゲート前で抗議の座り込みをしてきました。今回、あおば薬局の職員が辺野古基地建設現場前まで見学へ行くことができたのでご紹介します。

? 辺野古 新基地問題とは?

1995年の米兵による凶悪事件をきっかけに、沖縄県民の反基地・反米感情が高まったこと、住宅地にある普天間基地が危険であることから移設する動きになりました。その移設候補地が辺野古であり、新基地建設の問題点は、生態系へのダメージ、基地から出される排水や廃油による環境、漁業への影響として沖縄に新たな基地が出来るという反対意見が挙げられます。

2019年の県民投票で、投票総数の過半数が県内基地移設に反対となりましたが、政府は土砂投入・埋め立てを強行している現状です



沖縄県のもう一つの顔

10月23日から25日まで、辺野古支援連帯行動に参加してきました。

私のイメージでは、沖縄と言えば海に山と美しい自然に囲まれたリゾート地を想像します。しかしそれは今回ガラッと変わってしまいました。

空港に到着しバス移動をする中、鉄柵に囲われた米軍基地や、住宅街のど真ん中にある普天間基地を見て、世界一危険な飛行場と呼ばれる理由がわかりました。住宅と基地が隣合わせに存在する、その光景は衝撃を受けます。見学中にも米軍機が飛び交い爆音をとどろかせていました。



オスプレイが低空飛行を繰り返している場面にも遭遇しました。かなり危険な飛行であり、日本の航空法が適用されないとはこういうことかと思いきらされました。

いよいよ辺野古基地建設現場へ

辺野古へ行った日は、あいにくの雨

だったので、近くの浜辺から建設現場を見学しました。

民意に反して、海を土砂で埋め立て、地盤への杭打ちが始まっています。7万本打つ予定のうち、現在は10本ほどが埋まっています。そして建設にはすでに9千億円に近い費用が投じられています。これ以上の巨額の費用投入、自然破壊は止めていかなければなりません。



歴史の跡をたどって

最終日に沖縄戦の跡地、糸数（いとかず）アブチラガマを見学しました。当時の衛生環境は劣悪で、麻酔なしの手術、電気は早々に撤去、ひとたび明かりを消せば隣の人が見えなくなるほど闇に包まれます。助かる見込みの無い重症患者は治療されることなくガマの奥に追いやられ、死を待つことしかできなかったそうです。



次に、沖縄県平和祈念資料館を見学しました。

沖縄戦の生々しい写真、証言者の録音、戦地の映像。当時を知るには十分すぎる程の膨大な資料が展示されています。戦争は何も生み出さない、不幸にしかならないと強く感じました。

資料館の外には平和の礎（いしじ）という場所があり、沖縄戦で亡くなった20万人以上の氏名が彫られた碑が並んでいます。沖縄戦でいかにたくさんの方が犠牲になったのかを物語っていました。

平和を守り、今できること

今の政権は、憲法を変え、自衛隊と米軍が共に戦争できる仕組みに変えようとしています。沖縄の現状を見たら、とても許せるものではありません。沖縄を二度と戦争の惨禍に巻き込んではいけません。そう強く思います。

今回学んだことを後世にもしっかりと伝えていき、考える機会を作り、立ち止まらず行動していこうと思います。



(茂木)

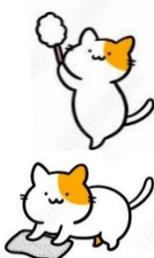
最後までお読みいただきありがとうございます。読者アンケートを実施しています。

ぜひ、「感想をお聞かせください。」



私の週課は、家中を掃除することです。

まずホコリを落とし、掃除機をかけ、クイックルワイパーで乾拭き、濡れ拭きをします。続いてトイレ、台所、お風呂、洗面台を掃除します。掃除が終わらないと休日が始まりません。



一週間の汚れを落とすことで、部屋は綺麗になり、気持ちが悪くありません。運気も上がり、体を動かすことでダイエットにもなり、一石四鳥です。

掃除をすると気持ちが悪く整うのは、体を動かすことで脳が活性化され、幸せホルモンのセロトニンが分泌されるからです。

全て掃除しようと無理はせず、できない時は、日をかけて行います。

これからも健康に日常生活が送れるよう継続しなければと思います。



(内田)

編集後記